

HOPE_{plus}

[市立芦屋病院だより]



新病棟完成から1年を迎えて

看護局長 恩田 朋子



平成 24 年 6 月 16 日、全職員で新病院への引っ越しを行いました。あれから 1 年が過ぎますが、この1年の間にも電子カルテの稼動、新駐車場の完成や診療機能が強化されるなど地域との親和性を重視した、新しいスタイルの市立芦屋病院となりました。

その一例として外来診療機能スペースが 4 階に集約されて機能的になり、緩和ケア病棟が新設され、がんに伴う体と心の痛みを和らげる治療とケアを行っています。

看護局では看護職員数の増加、教育体制の再構築、医療安全の強化など、チーム医療において中心的存在になるため、さらに安全で良質な看護が提供できるための環境、人材は充実し、整ったと思っています。職員は新病院で働ける喜びと共に、市民の皆様の要望や期待に応える使命と責任、そして専門職としての役割を果たすためにがんばっています。

スペシャリストといわれる専門・認定看護師もいますが、大半の看護職員はジェネラリストであり、専門職以外ではボランティアの方々、看護助手、クラークなどが患者さんへの日々のケアを実践しています。新しい建物に負けないように、人間性豊かな看護職員を育てていくことが看護局長としての使命であると思っています。

これからは患者さんを中心にして、病院の医療専門職以外の地域・在宅のスタッフがかかわるチーム医療で治療・ケアに当たっていくことがますます重要となります。病院の総力を挙げて、救急医療から地域・在宅までのさまざまな機能をしなやかに駆使し、地域の方々へさらに貢献できるよう全力を尽くしたいと思っていますので、皆様方の温かいご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

新任Drの紹介



なかじま しんいちろう
中嶋 真一郎
専門分野
緩和ケア
資格…精神保健指定医
日本精神神経学会専門医、指導医
日本医師会認定産業医
趣味…テニス、自転車、車、カレー屋めぐり

平成16年3月 近畿大学医学部卒業
同年4月 医仁会武田総合病院 初期研修医
平成18年4月 医療法人北斗会 さわ病院
平成19年7月 医療法人志誠会 平和病院
平成19年12月 医療法人北斗会 さわ病院
平成21年1月 医療法人北斗会 ほくとクリニック病院
平成23年4月 医療法人友誼会 彩都友誼会病院 緩和ケア科

7月より緩和ケア医として赴任いたしました。病気に伴うつらい症状のために自分らしい生活が難しくなっておられる患者さんに対し、できる限り苦痛を減らすことでこれまでと同じように自分らしい人生を歩んでいただけるようお手伝いできたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

芦屋病院 がん特集 Vol.2

血液・腫瘍内科 西本 哲郎



近年、「二人に一人は一生のうちに一度はがんになる」「三人に一人はがんで亡くなる」といったことが言われるようになり、長寿化してきた日本国民にとって「がん」は皮肉にも身近な存在になりつつあります。

一方で、医療分野の中でも急成長を遂げている分野の一つが「がん治療」の分野です。がん治療には大きく分けて「手術」「放射線治療」「抗がん剤治療」「緩和ケア」という4つの柱があります。当院では「放射線治療」を除く「手術」「抗がん剤治療」「緩和ケア」を専門的に行えます。

「抗がん剤治療」について言うと、その適応は拡大してきており、手術と組み合わせて行う抗がん剤治療や、手術後の再発予防のための抗がん剤治療もあります。また手術が不可能な場合でも、抗がん剤を使用することで生存期間の延長、日常生活の質の向上が言われるようになってきました。

以前は、「抗がん剤＝吐き気」「抗がん剤＝しんどい」という強いイメージがありましたが、近年は「吐き気止め」などの薬も進歩しているため、副作用をかなり軽減できるようになっています。更に当院では抗がん剤治療をその副作用に精通した「血液・腫瘍内科」の医師が担当することで、早期に対処できるよう努めています。

それでも副作用が全くないわけではありませんし、その程度も個人差が大きいのが現状です。そこで芦屋病院では「緩和医療」に精通した医療スタッフで構成されている「緩和ケアチーム」と共同して、治療に伴う苦痛の軽減を図る試みも行っています。

抗がん剤に伴う苦痛は身体的なものだけではなくありませんので、精神面や金銭面などの苦悩にもアプローチする試みも行っています。

芦屋病院は大きな病院ではありませんが、横のつながりが緊密であるために様々な角度から患者さんにアプローチできるのが大きな特徴といえます。

「抗がん剤治療」が少しでも安心してできる「楽な治療」になるように、これからも芦屋病院は工夫をして参ります。

がんフォーラム 2013 のご案内 「ここまで出来る！ 最新のがん化学療法」

日時 平成 25 年 9 月 7 日 (土)
午後 1 時 30 分～4 時

会場 芦屋市民センター ルナ・ホール
※参加費は無料です。

今年のがんフォーラムのテーマは「最新のがん化学療法」です。

暗いイメージを持ってしまうがちながん化学療法ですが、ぜひがんフォーラムへ足を運んで頂き、最新のがん化学療法について知っていただきたいと思います。

プログラム

講演【第1部】

1 「いろいろあります！ 抗がん剤」

市立芦屋病院 血液・腫瘍内科部長 松梨 達郎

2 「がまんしない！ 抗がん剤の副作用」

市立芦屋病院 薬剤科部長 岡本 禎晃

講演【第2部】

3 「分子標的薬 ここまで進んだがん治療」 神戸大学医学部 腫瘍・血液内科学講座 教授 南 博信

専門外来よりお知らせ ～形成外科の診療を開始します～

7月より毎週火曜日の午前診にて形成外科の診療を開始します。当院の形成外科では下記のような疾患に対処します。

皮膚皮下腫瘍（粉瘤、脂肪腫、脂漏性角化症、基底細胞癌、扁平上皮癌など）、ほくろ、あざ、体表の切創・挫創、熱傷、手術や外傷後のキズあと、眼瞼下垂、皮膚潰瘍、褥瘡（床ずれ）、静脈瘤、巻き爪（陥入爪）
※手術は局所麻酔下で行えるものに限ります。



形成外科担当
にし もと そう
西本 聡 先生

専門

形成外科
(小児形成外科、創傷治癒、頭蓋顎顔面外科、再建外科)

形成外科全般について豊富な臨床経験を積んできました。
培ってきた幅広い知識に基づいた情報を提供します。

形成外科の診療開始に伴い、**皮膚科の診察日が月・水・金曜日に変更**となりますのでご注意ください。

(専門外来 外来担当表) ※午前11時30分までの受付となっております。

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
皮膚科	形成外科	ペインクリニック 皮膚科		皮膚科



地域医療まもり隊 ～開業医の先生紹介～

いとう内科 伊藤 恵子 先生



当院は平成9年4月開業の内科医院です。市立芦屋病院に地域連携室が設置された同時期のスタートでした。当初より大変お世話になりましてありがとうございます。

「病院は病める人のオアシスであれ」の言葉がお世話になった医局には掲げてありました。私もその言葉のように、質の高い医療とオアシスのような安らぎのあるクリニックを目指し日々診療をしております。

地域の「かかりつけ医」として内科のみならず全科にわたる病院の窓口になっている面もあります。そのような時、芦屋病院の各科の先生方には御高診、御加療、適切なご指示をいただき、本当に心強く、感謝いたしております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

7月

院内の催し・各教室のご案内

糖尿病教室 ※毎月第2金曜日開催 (8月はお休みです)

日 時 7月12日(金) 13時30分～15時
場 所 2階病棟 講堂
内 容 運動療法と水分補給
料 金 無 料



芦屋病院 マチネコンサート ※月1回日曜日開催

日 時 7月7日(日) 14時30分～
場 所 外来ホール 黄色いピアノ前
出演者 保坂 博光(テノール)、保坂 正児(バリトン)、金澤 佳代子(ピアノ)
内 容 黄色いピアノ14歳 お誕生日おめでとう!!



両親学級 ※毎月第2土曜日開催

日 時 7月13日(土) 10時～12時 **場 所** 3階東病棟
内 容 お産の経過・赤ちゃんのお風呂
対 象 妊娠22週以降の妊婦とパートナー・5組
問い合わせ 産婦人科外来(電話は13時～16時)

健康教室 ※年4回開催

日 時 7月17日(水) 13時30分～
場 所 芦屋市保健福祉センター3階 会議室1
内 容 薬にまつわるエトセトラ
問い合わせ 地域連携室

次回は
9/25
開催予定です

事業管理者のつぶやき

市立芦屋病院 事業管理者 佐治 文隆

似て非なる

見た目が似て非なるものの例に、「ひらめ(鯉)とかれい(鰻)」、「そうめん(素麺)とひやむぎ(冷や麦)」などがありますが、「ハス(蓮)とスイレン(睡蓮)」もその一つです。蓮は七月中旬に開花することから、旧暦七十二候のうち、小暑の次候は「蓮はじめて開く」とされています。蓮の花「蓮華」は如来像の台座など仏教の思想や美術と深い関係がみられますが、これは沼など泥の中からすくくと立ち上がり、気高く美しい花を咲かせる姿に仏教の教えをイメージしたといわれます。蓮華は日中に花弁が開き、夕に閉じ、これを三日間繰り返します。ハスは食用にも供され、果実(種子)は俗に「ハスの実」と呼ばれ、そのままあるいは加工して食べられます。中国では道端の屋台などで「ハスの実」を売っているのを見かけました。地下茎はご存じ「レンコン」として主にアジアで食材に使われます。

一方、スイレンはハス同様に水面に葉と花を繰り返し広げ、花の寿命も三日間で同じです。大きな違いは、葉にあります。スイレンは基本的に葉に切れ込みが入りますが、ハスの葉には入りません。また、ハスの葉には撥水性があるのが特徴的ですが、これは葉の表面の微細な凹凸構造によるもので、スイレンには見られません。ハスの葉の撥水性は「ハス効果(Lotus effect)」と呼ばれ、テフロン加工の鍋などに应用されています。スイレンの地下茎はレンコンのように穴もあいていませんし、もちろん食用にもなりません。

スイレンと言えば、印象派画家クロード・モネ(1840-1926年)が自宅の庭にある池を描き続けた「睡蓮」を思い浮かべますが、「睡蓮」だけで実に200点にのぼる作品を残しています。年代順にこの作品群を見ていきますと、モネに視力障害が発生し、進行していることが判ります。加齢による慢性核白内障と考えられ、水晶体が着色し、濁ってくることから生じる色覚変化と視力低下により、晩年の作品は赤みを帯び、以前と比較して夢幻的な絵画になっています。モネ自身も自覚があって、眼科医を受診していますが、手術に抵抗していたようです。1912年頃の彼の視力は0.4(アメリカ式表記20/50)以下と推測され、さらに進行した1918年にはおよ

そ0.2(同20/100)に低下したと推測され、1919年から1922年まで絵画制作を断念しています。その後、1924年に受けた手術で視力を取り戻し、現在オランジェリー美術館所蔵の巨大な「睡蓮」を精密に製作しました。

医学とくに眼科学の立場から絵画を見て、芸術と眼科学を論じて考察することは、文字通り視点を変えた研究であり、興味深く感じます。米国医師会雑誌の論文(Michael F. Marmor, 2006)では、モネに加えてドガ(1834-1917年)の眼疾患についても述べています。ドガはおそらく網膜中心(黄斑)の障害による進行性の網膜疾患であったと推測されます。1880年代に視力は0.2~0.1に低下し、さらに1900年になると0.1~0.05といっそうの悪化が観察されます。視力低下は当然作風に影響を与え、1870年代の作品に見られた顔の細部へのこだわり、注意深い陰影の表現、踊り子の衣装の襷などきわめて正確な描写が、80年代以降には目に見えておおまかになっています。

画家の作品の時代的变化は、思想・心情の変化、環境の影響などで多くは説明されますが、眼科学を介して評価すると科学的な解釈が出来ることもあります。病む前後の異なった眼を通して描かれた作品もまた「似て非なる」ものかも知れません。



事業管理者のつぶやきについてはホームページにも連載しておりますのでぜひご覧下さい。

市立芦屋病院 ご案内

交通案内

JR 芦屋駅、
阪急芦屋川駅から

	タクシー 約5分
	バス 約15分 JR 芦屋駅、阪急芦屋川駅 のりば2番
	徒歩 約30分

※ 病院ネットワークバスもご利用下さい(無料)

市立芦屋病院の理念

基本理念
生命の尊厳を基本とし、安全で良質な医療を提供します
芦屋市の中核病院として、地域社会に貢献します

経営理念
あい(愛)・しあわせ(幸せ)・やさしさ(優しさ)



日本病院機能評価機構 認定施設(ver.6.0)

市立芦屋病院

〒659-8502 芦屋市朝日ヶ丘町39-1

TEL:0797-31-2156 FAX:0797-22-8822

ホームページ <http://www.ashiya-hosp.com>